

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次小学校	校長	出口 康子	生徒指導主事	原 勝明
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名	『児童会（委員会）の主体的な活動』
-------	-------------------

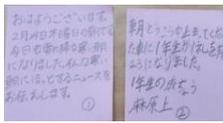
取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「表現力」	2	「主体性」	1	「自己表現力」	3

取組のねらい

委員会活動を通して、自分たちの学校生活の充実と向上のために、学校生活を見直し、集団の一員として自発的・自治的に行動しようとする態度を育てる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『今できることを工夫しよう』
----------	---------------------------

<p>◎新型コロナウイルス感染症対策のため、これまで通りに活動することが困難になった。「難しいから、できない」のではなく、主体的に「工夫してできることを創り出す」委員会活動に取り組ませた。</p> <p>【体育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝会の時間、「体育朝会」として低中高学年のくくりでレクリエーション的な運動の場を設けて運営していた。 <p>⇒ 休憩時間に体育館で、クラスごとに時間差をつけドッジボールを楽しめるように「学年レク」を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期に実施した学年ごとの「体育参観日」に向けて、準備運動として全校で取り組んだ「リズムジャンプ」のお手本動画をつくり、事前に視聴してもらった。 <p>【図書委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室が密接空間になってしまわないように、工夫した。 ① 新刊図書の配置を見直し、一か所に児童が集まらないようにした。 ② 貸し借りを管理するPCの前が密にならないよう、床に印をつけた。 ③ 貸し借りの時間帯等、貸し出しの約束の見直しをした。 <p>【広報委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業前の放送を、毎日決まった言葉で伝えていた。 <p>⇒ 学校生活の中で気づいたことや季節の事柄など、自分たちで毎日原稿を考えて放送した。</p>	<p>◎4月の委員会活動にあたり、各委員会に、「この環境・状況でどんな活動ができるかを考え、アイデアを出し合おう」と課題提起した。</p> <p>【体育委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対戦の待ち時間がなくなるよう、6年生の委員会外の人に協力を求めて対戦相手になってもらった。   <p>低学年からお礼のメッセージ</p> <p>【図書委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制限ばかりでは、図書の貸し出しが減ってしまうので、貸し出しがスムーズにできる工夫を考えた。  <p>床の印</p>  <p>新刊の表示</p> <p>【広報委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の中で発見した児童のがんばりやいいことを取り上げ、紹介できるよう情報を集めた。  
--	---

取組の成果と課題

○前年度までの活動にとらわれず、多様なアイデアを出し合い取り組んでみることで、児童が主体的に委員会活動に参画しようとする意欲が高まった。

○委員会の活動が全校児童に「見える」活動になったことで、他学年が6年生の活動に関心を持ち、相互評価する機会が増えた。

○3学期に実施した5年生の児童会役員選挙では、感染症対策をふまえて実施可能な行事や活動を取り入れた公約を示す児童が多かった。

●委員会によっては、児童の企画が少なかったり実現が難しかったりして、成功体験が得られにくいものもあった。